

平成26（2014）年3月13日（木）
重点都道府県等エイズ対策担当課長連絡協議会

MSMのHIV検査受検促進・普及啓発

宝塚大学看護学部

日高 庸晴

y-hidaka@takara-univ.ac.jp

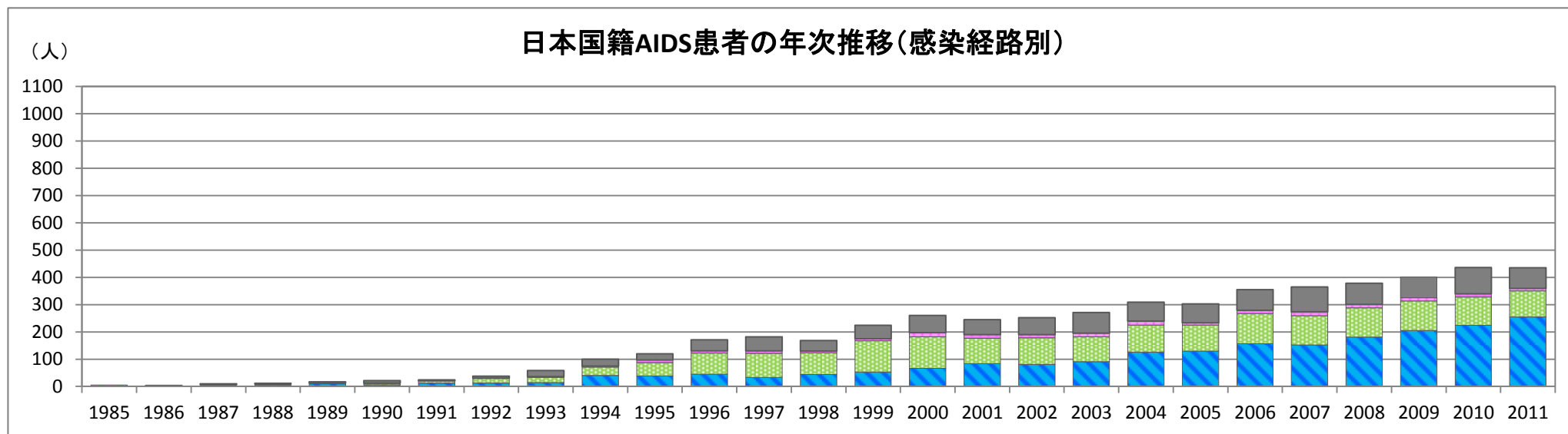
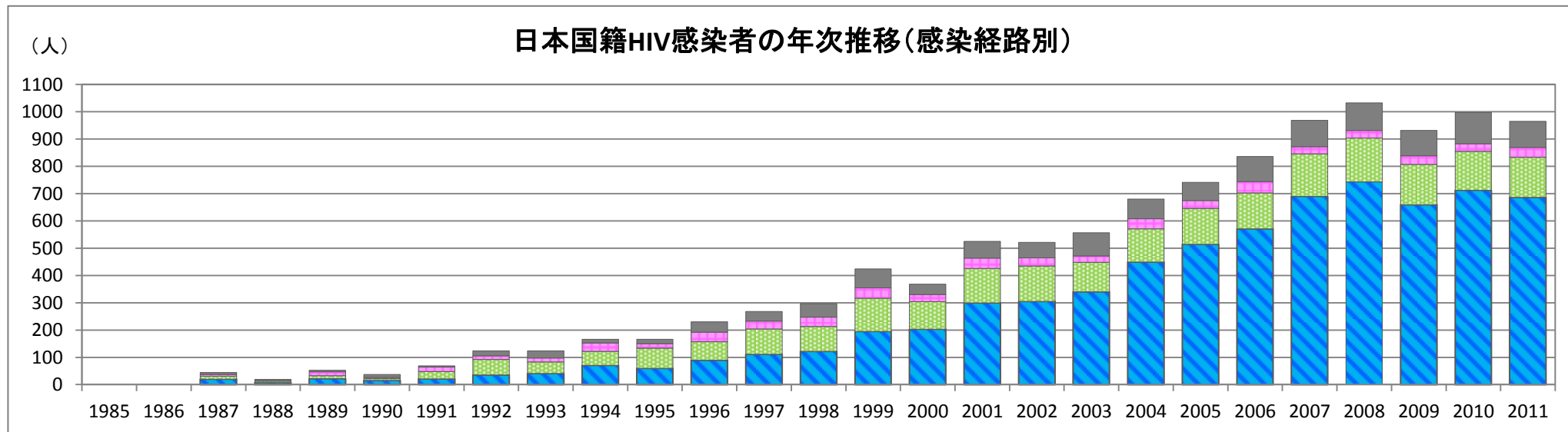
<http://health-issue.jp/>

MSMのHIV感染予防対策は喫緊の課題

- HIV感染は・・・いつ、どこで、だれが？
- 現状を示す疫学データを直視することから始める
- 流行の主流は男性同性間性的接触である
- 感染経路、集団の特性に合致した情報提供・提供方法が不可欠
- 異性間性的接触に偏重した予防対策では、MSM対策にはならない
- MSMの学齢期に関する学校教育の課題
 - 肯定的なセクシュアリティ情報が少ない
 - 男性同性間によるHIV予防教育が圧倒的に欠如
 - 自尊感情が傷つく経験が多くある（いじめ被害、など）

**HIV予防対策に取り組むにあたって、当面緊急の対象は誰か？
効果的な予防対策とは？**

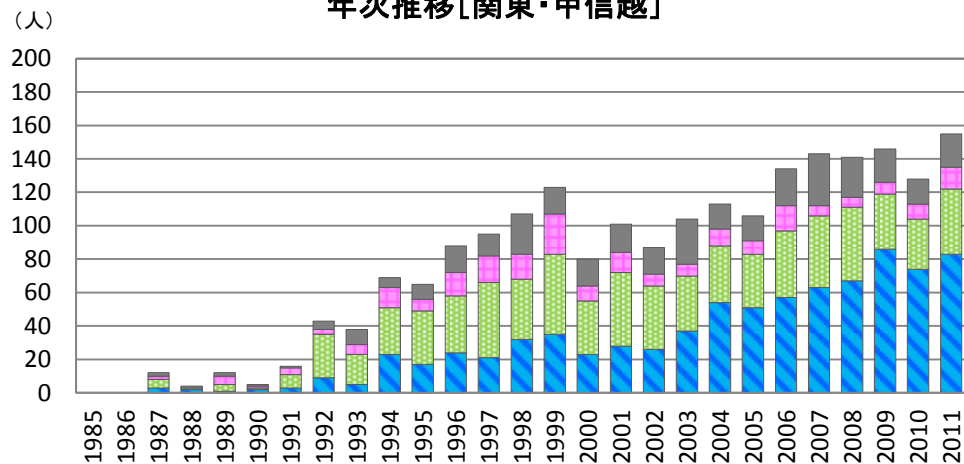
日本国籍HIV感染者/AIDS患者の年次推移



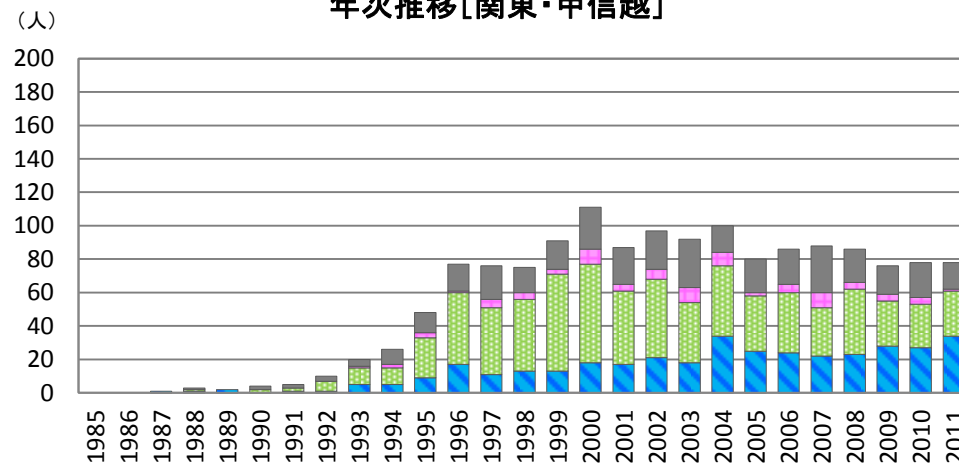
■ 男性同性間性的接触 (MSM) ■ 男性異性間性的接触 ■ 女性異性間性的接触 ■ その他・不明

日本国籍HIV感染者/AIDS患者の地域別年次推移

日本国籍HIV感染者の地域別・感染経路別の
年次推移[関東・甲信越]



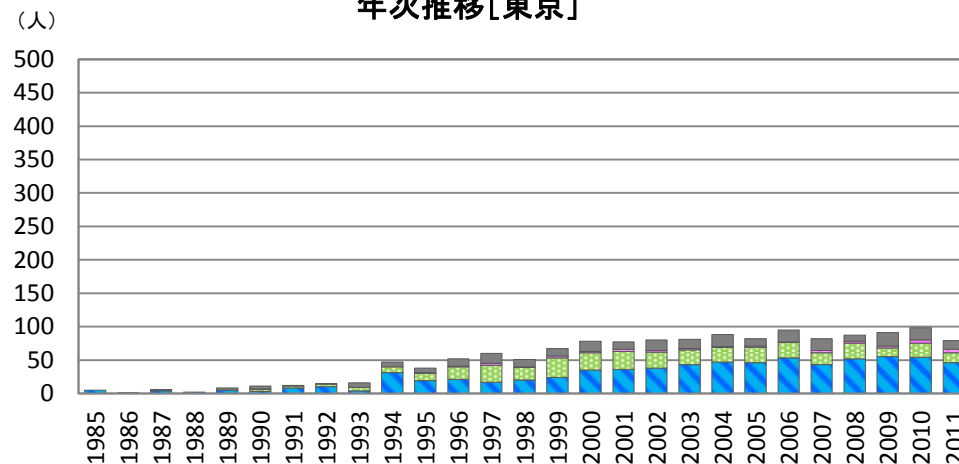
日本国籍AIDS患者の地域別・感染経路別の
年次推移[関東・甲信越]



日本国籍HIV感染者の地域別・感染経路別の
年次推移[東京]



日本国籍AIDS患者の地域別・感染経路別の
年次推移[東京]



■ 男性同性間性的接触 (MSM)

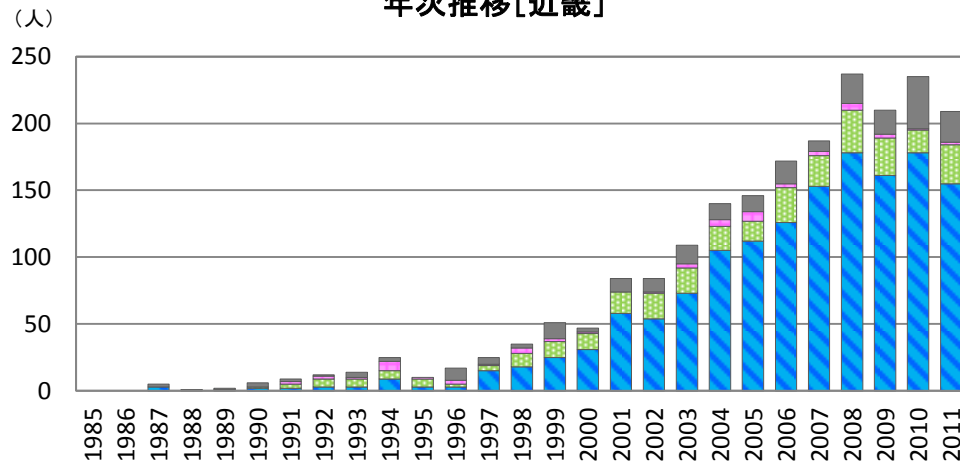
■ 男性異性間性的接触

■ 女性異性間性的接触

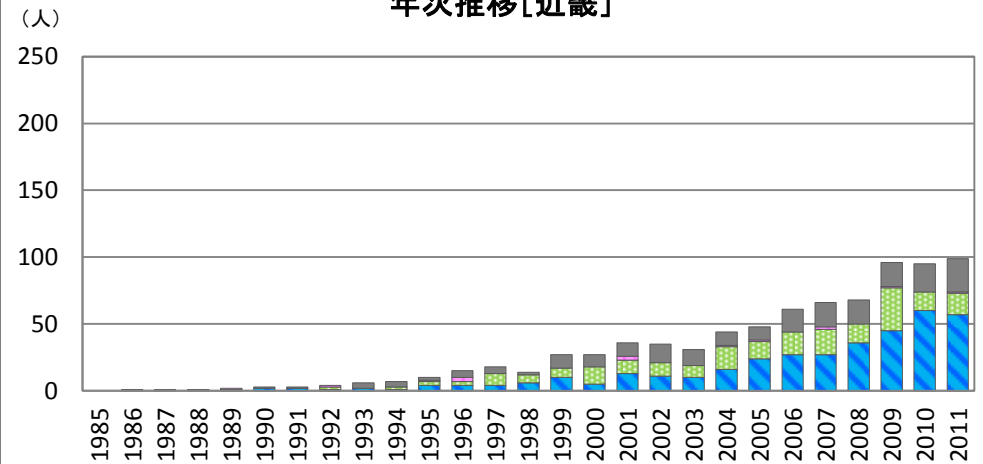
■ その他・不明

日本国籍HIV感染者/AIDS患者の地域別年次推移

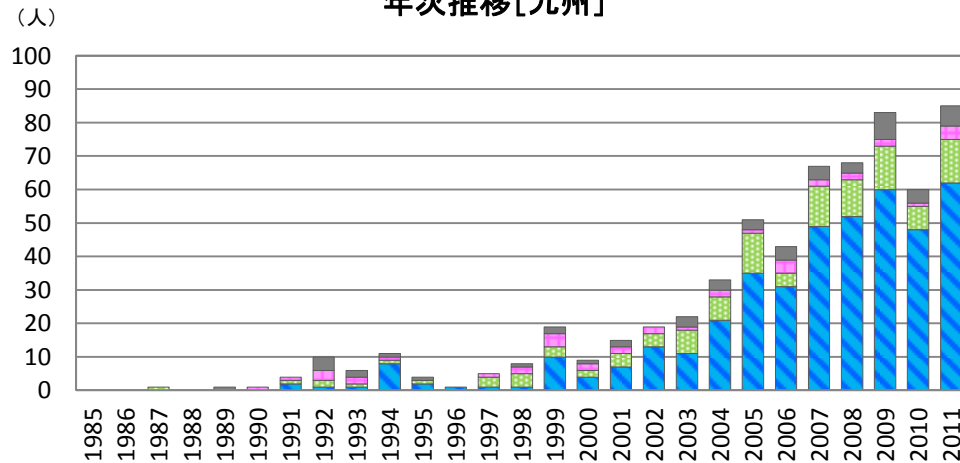
日本国籍HIV感染者の地域別・感染経路別の 年次推移[近畿]



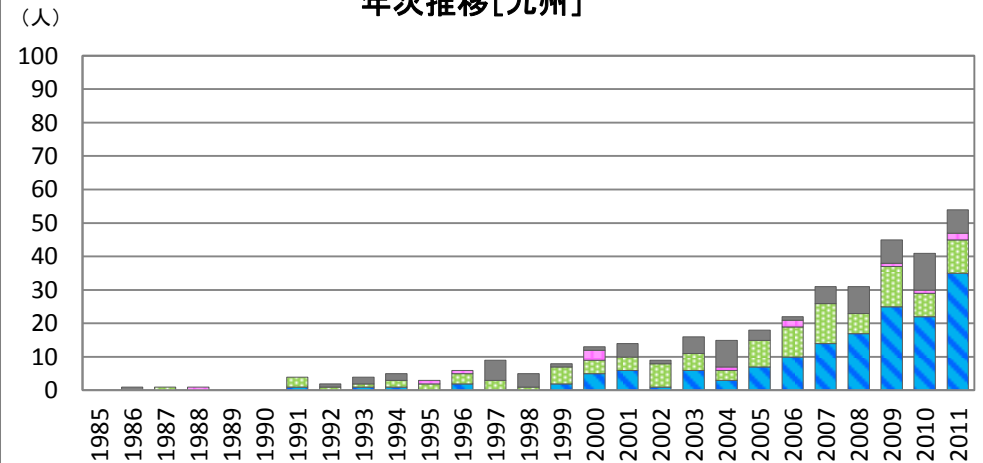
日本国籍AIDS患者の地域別・感染経路別の 年次推移[近畿]



日本国籍HIV感染者の地域別・感染経路別の 年次推移[九州]



日本国籍AIDS患者の地域別・感染経路別の 年次推移[九州]



■ 男性同性間性的接触 (MSM)

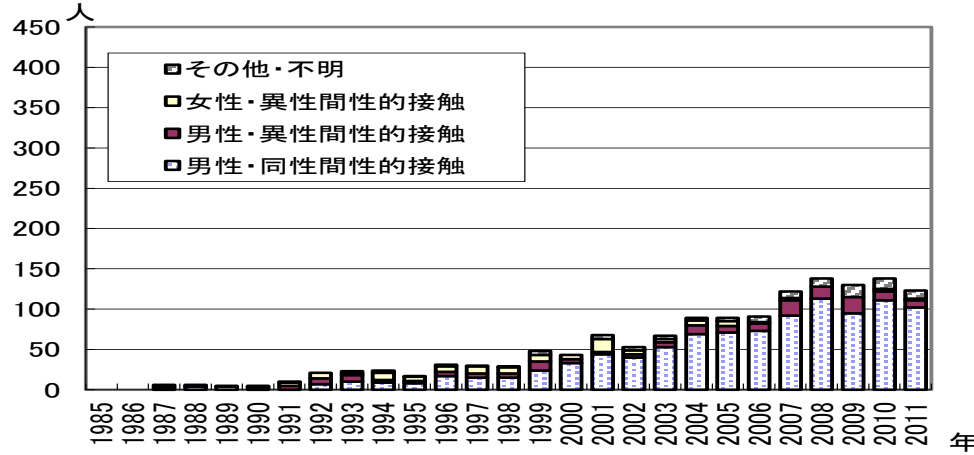
■ 男性異性間性的接触

■ 女性異性間性的接触

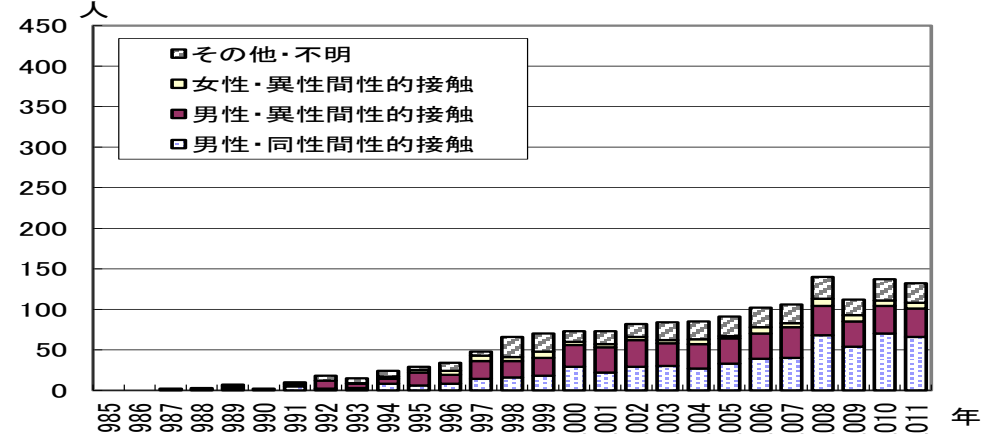
■ その他・不明

日本国籍HIV感染者の性別、感染経路別の年次推移

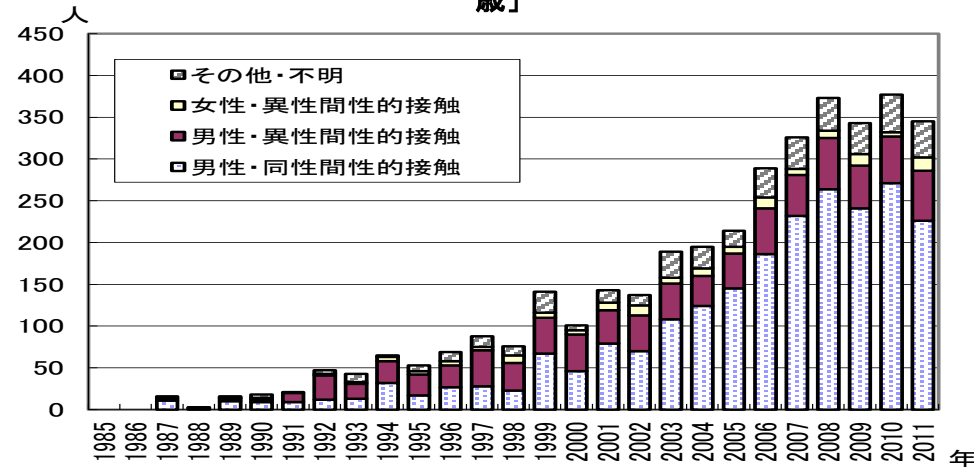
日本国籍HIV感染者の性別、感染経路別の年次推移[15-24歳]



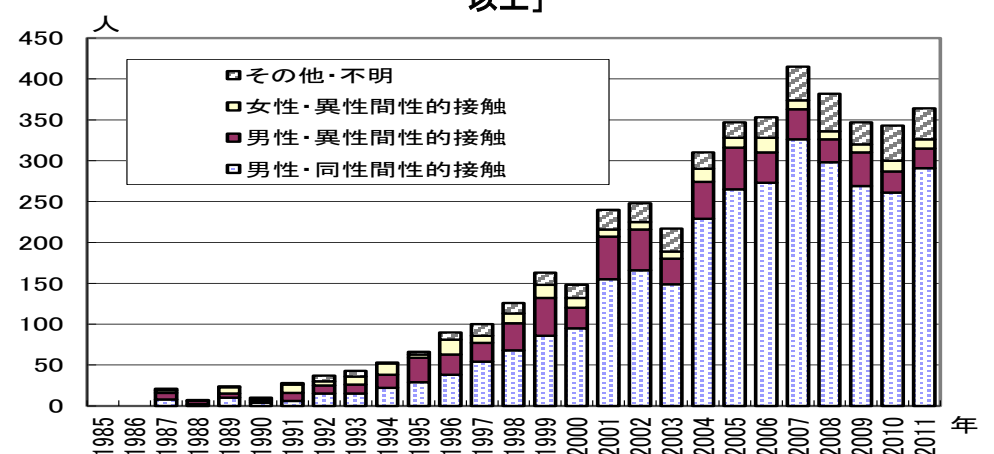
日本国籍HIV感染者の性別、感染経路別の年次推移[25-34歳]



日本国籍HIV感染者の性別、感染経路別の年次推移[35-44歳]



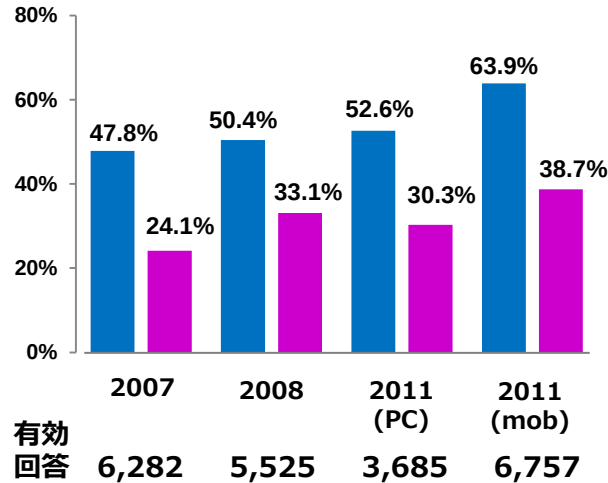
日本国籍HIV感染者の性別、感染経路別の年次推移[50歳以上]



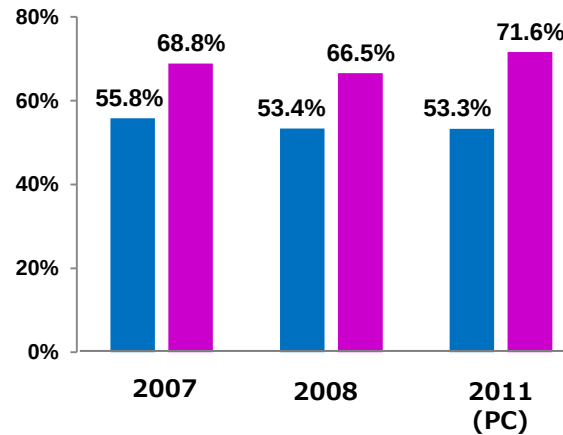
学齡期のいじめ被害とHIV感染

学校教育における環境改善も急務のひとつ

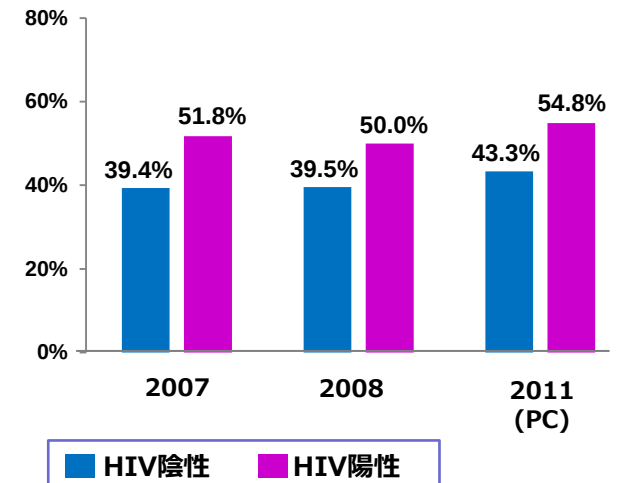
これまでの学校教育で、
異性間のエイズ予防について
情報を得たことがある



「ホモ・おかま・おとこおんな」
といった言葉で
いじめられたことがある



「ホモ・おかま・おとこおんな」
といった言葉以外で
いじめられたことがある

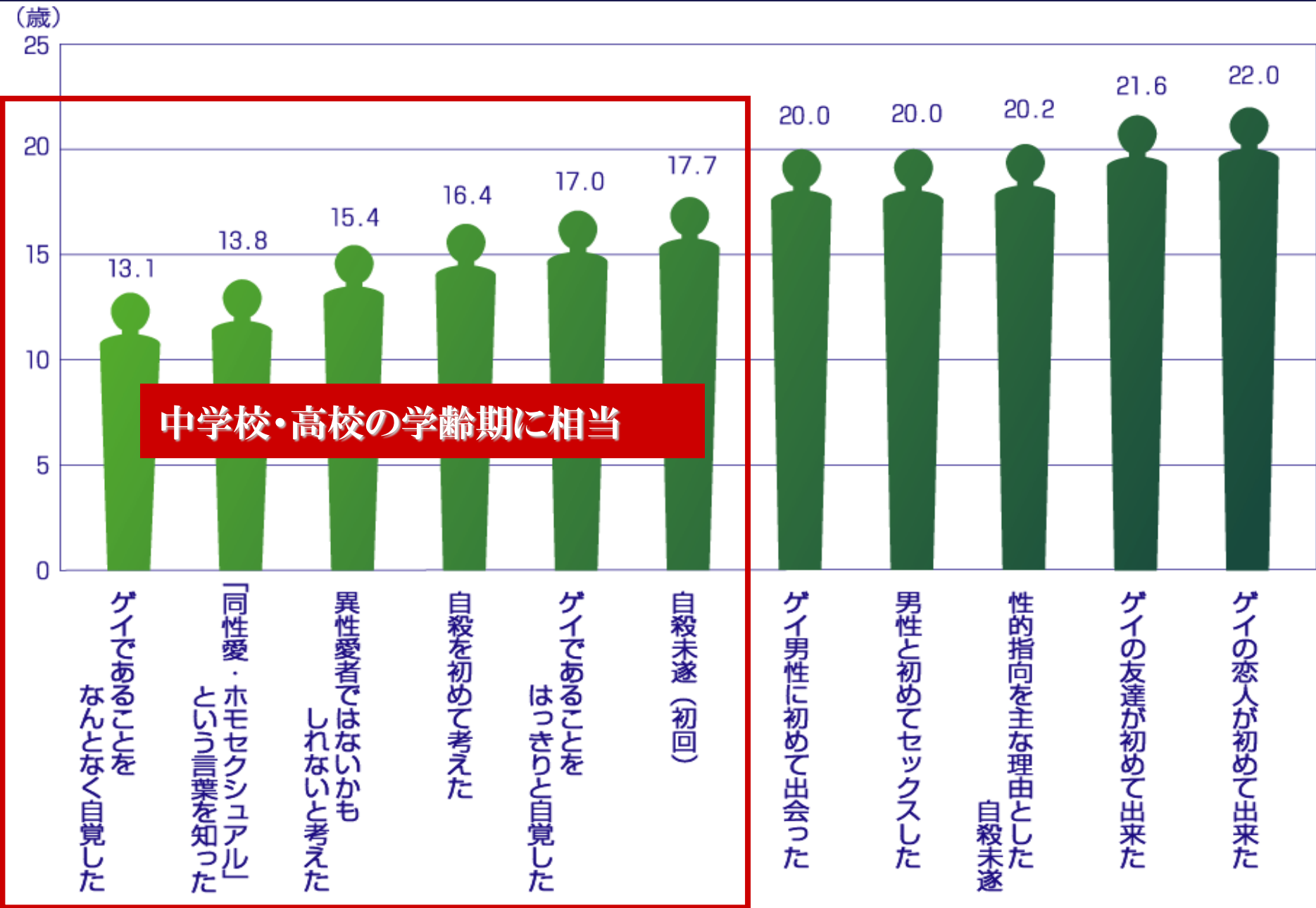


- いじめ被害割合が高率
- セクシュアリティの肯定的受容の困難
- 自尊感情、自己肯定感の低下
- メンタルヘルスの悪さ（44%抑うつ傾向）

- 平均年齢19-20歳で男性と初交経験
- HIV感染リスク行動（コンドーム不使用）

若年MSM：学齡期の予防介入・自尊感情を涵養
成人MSM：大人になったMSMにメンタルヘルス支援

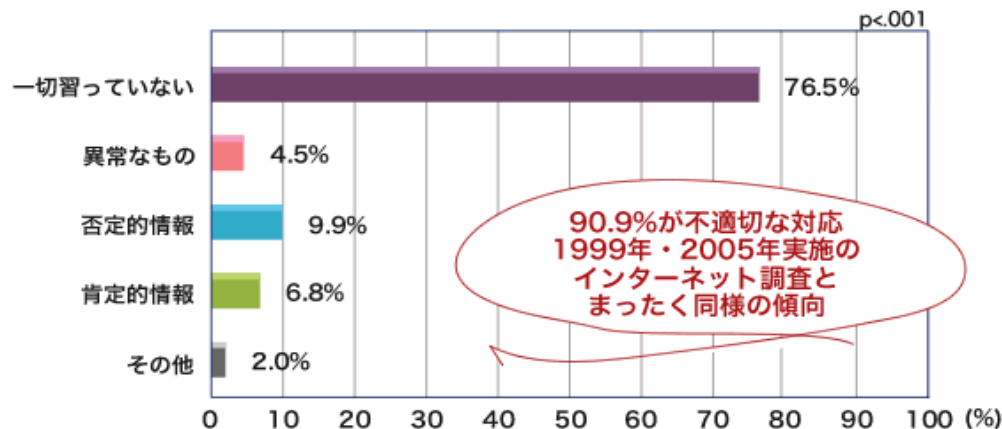
思春期のライフイベント平均年齢 (研究参加者1,025人)



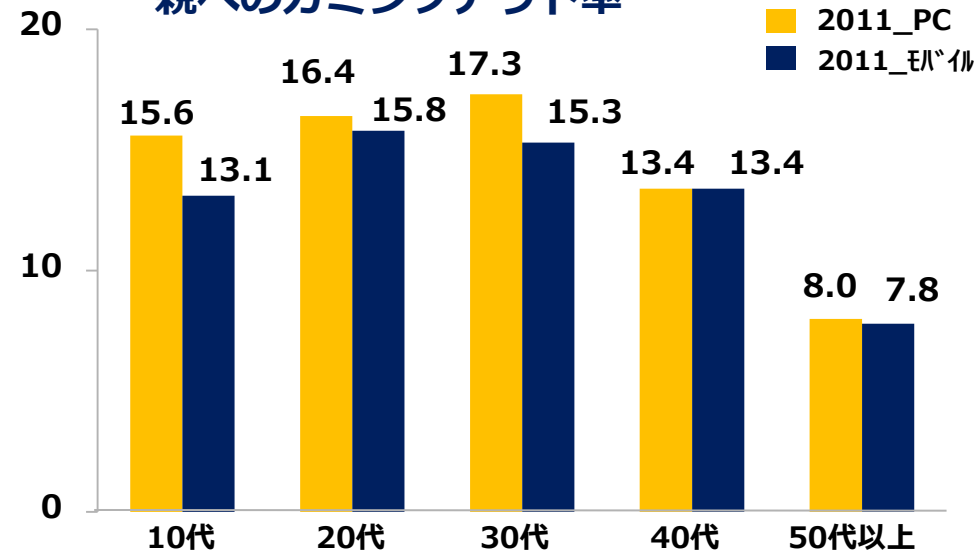
教育現場でのセクシュアリティ教育や同性愛に関する情報の圧倒的不足

親へのカミングアウトの困難13-15%程度

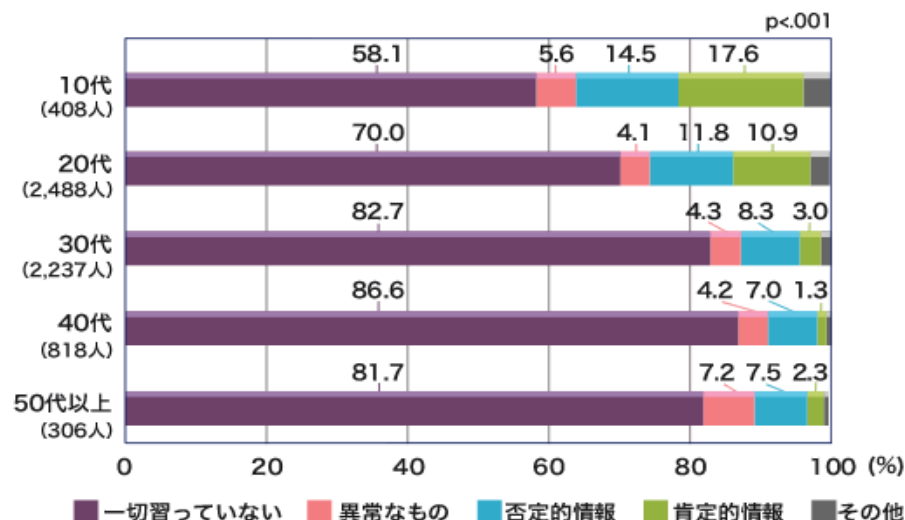
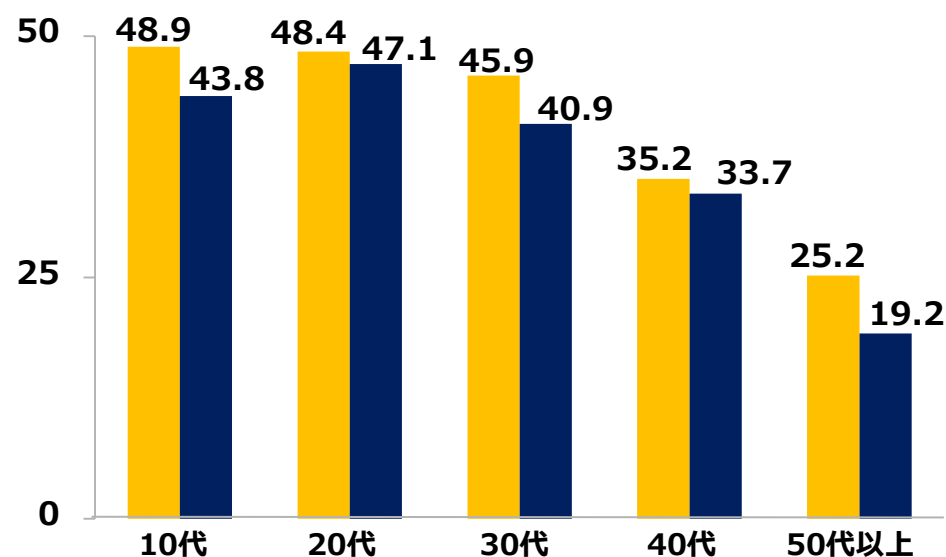
学校教育における同性愛やセクシュアリティに関する情報の取り扱い



親へのカミングアウト率



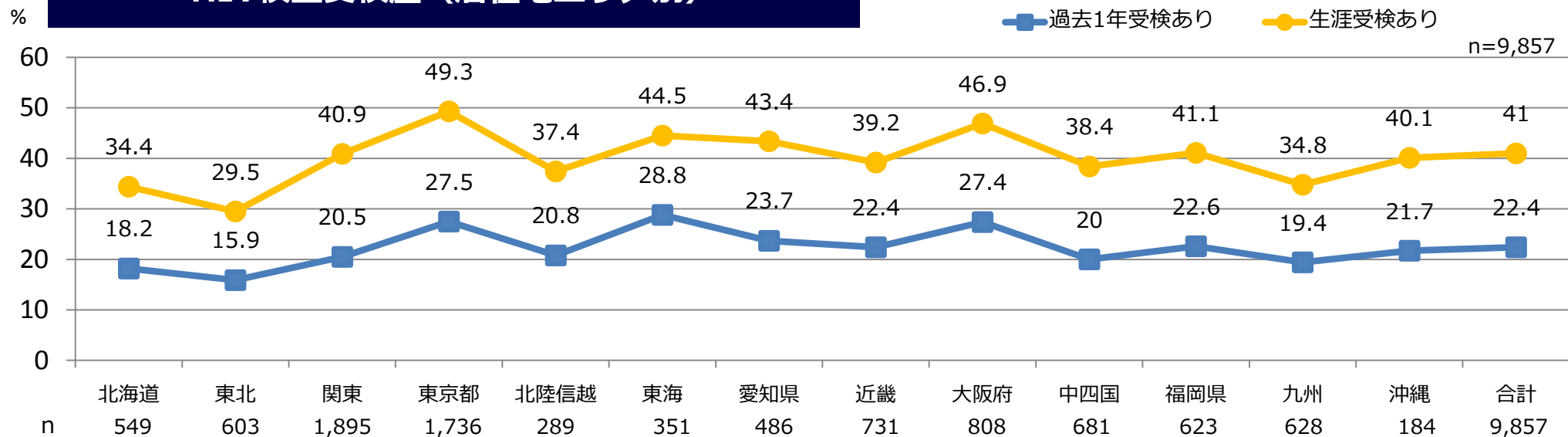
親以外へのカミングアウト率



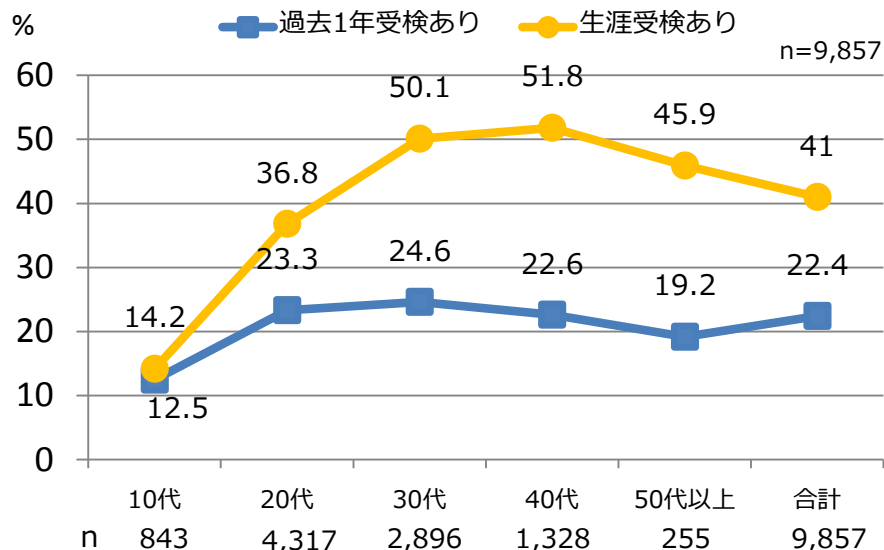
平成17年度 厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業
男性同性間のHIV感染対策とその評価に関する研究 (研究代表者 市川 誠一)

平成23年度 厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業 HIV感染予防対策の個別施策層を対象にしたインターネットによるモニタリング調査・認知行動理論による予防介入と
多職種対人援助職による支援体制構築に関する研究 (研究代表者 日高庸晴)

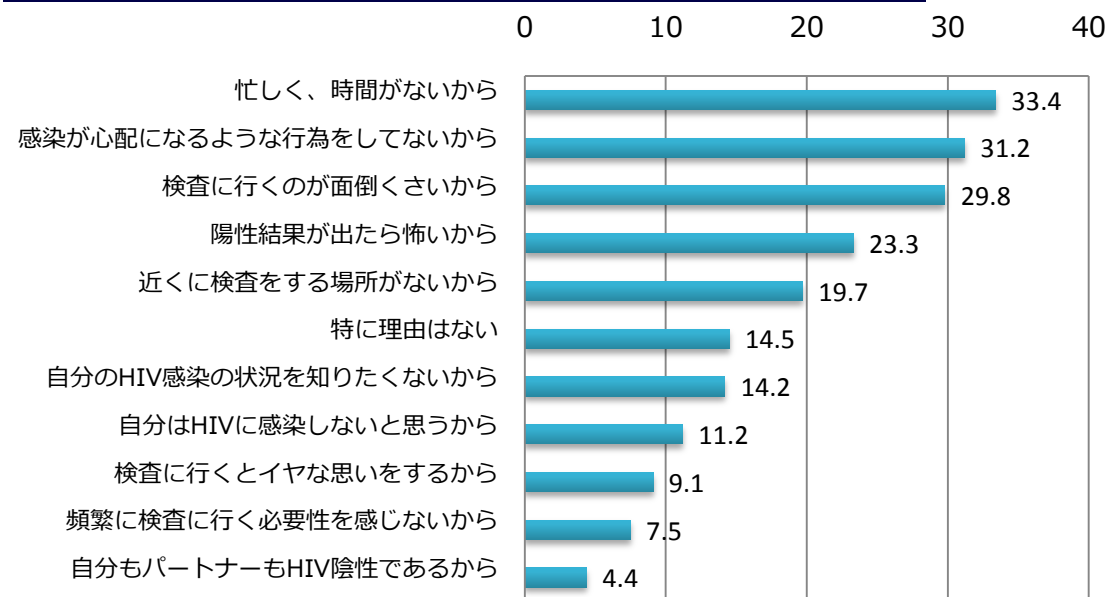
HIV検査受検歴（居住地エリア別）



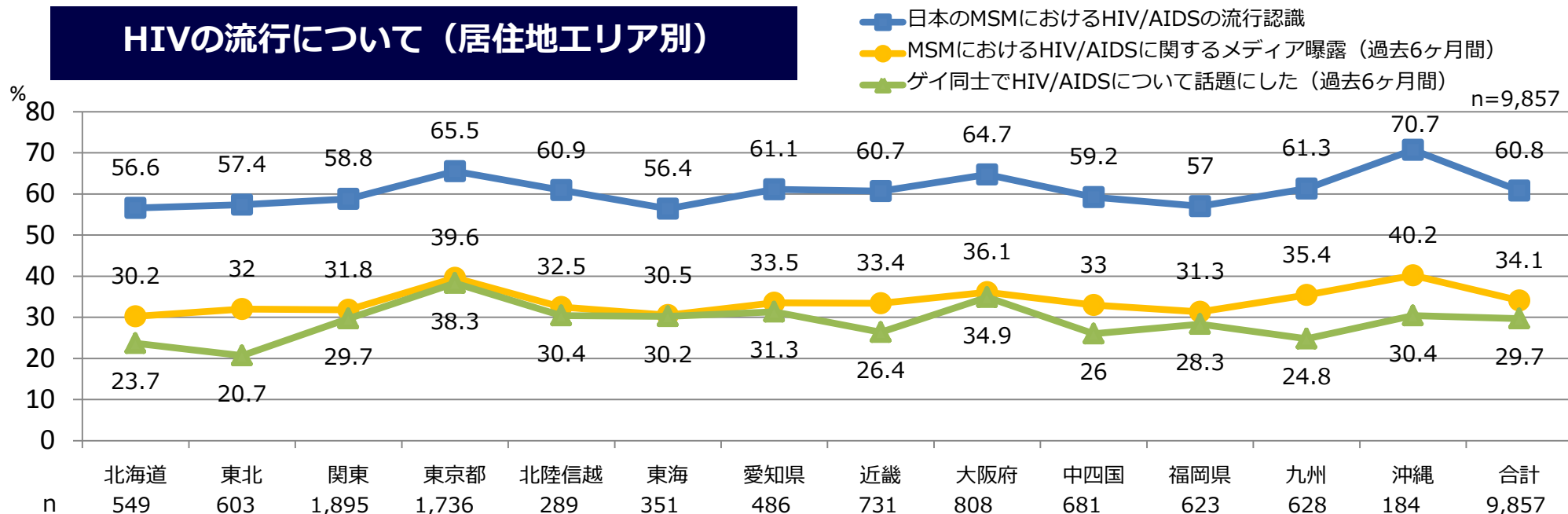
HIV検査受検歴（年齢階級別）



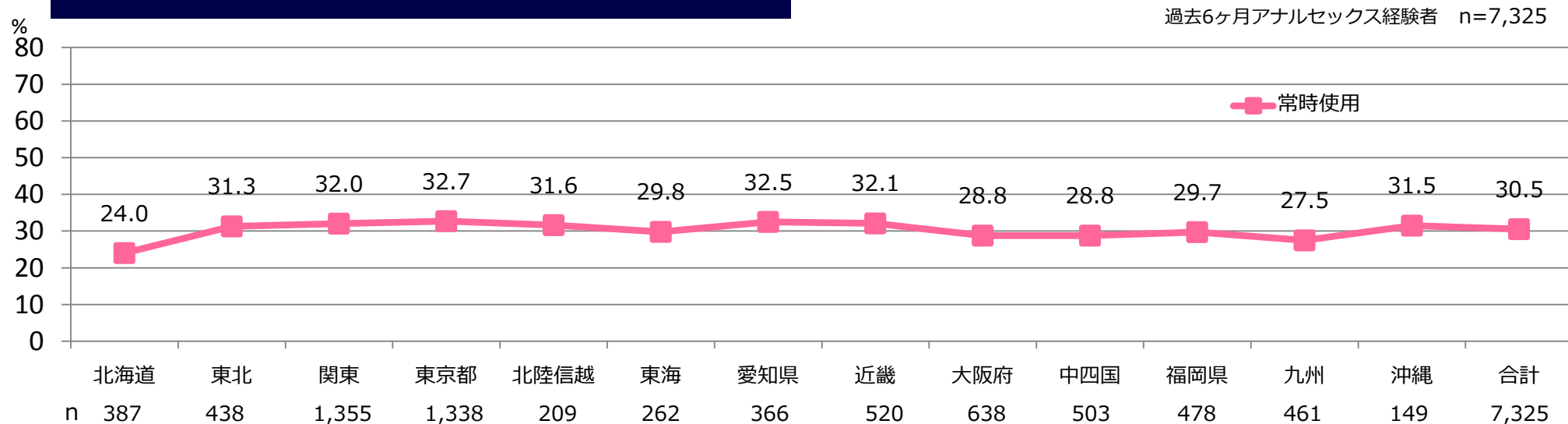
これまでに検査を受けなかった理由（複数回答）



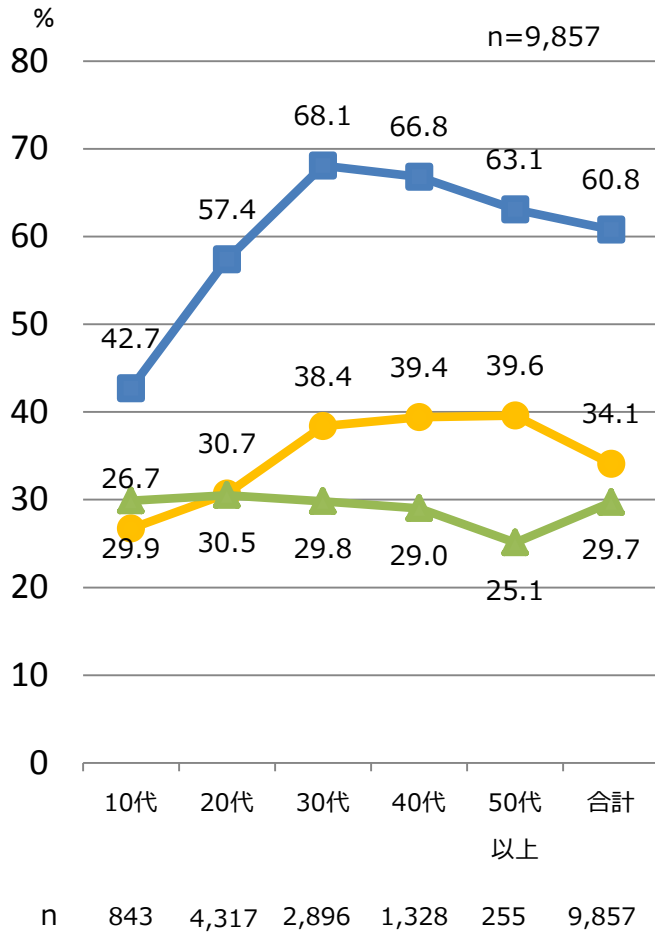
HIVの流行について（居住地エリア別）



コンドーム使用状況（居住地エリア別）

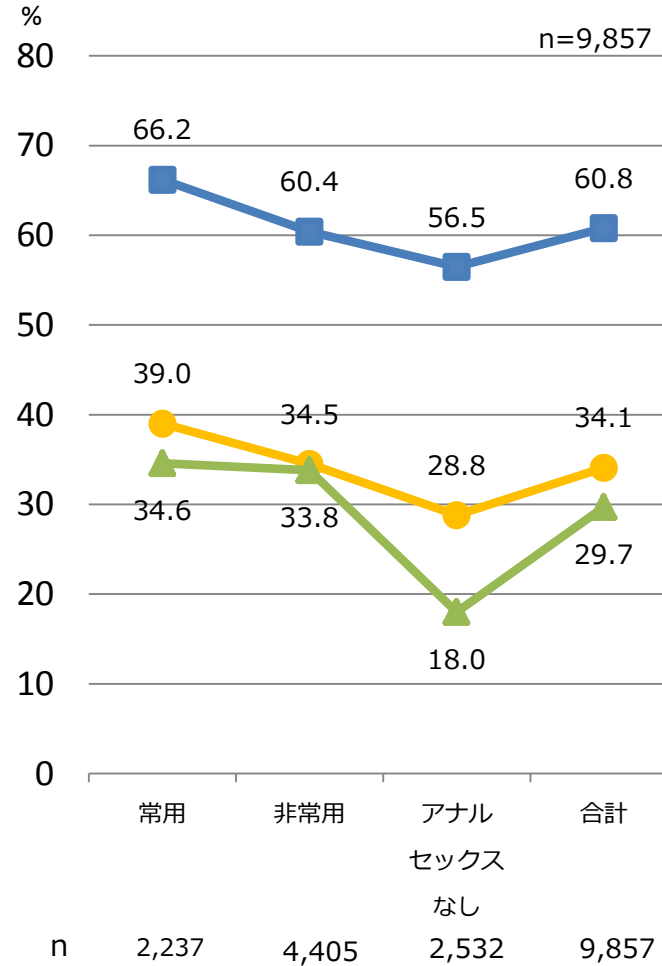


HIVの流行について (年齢階級別)

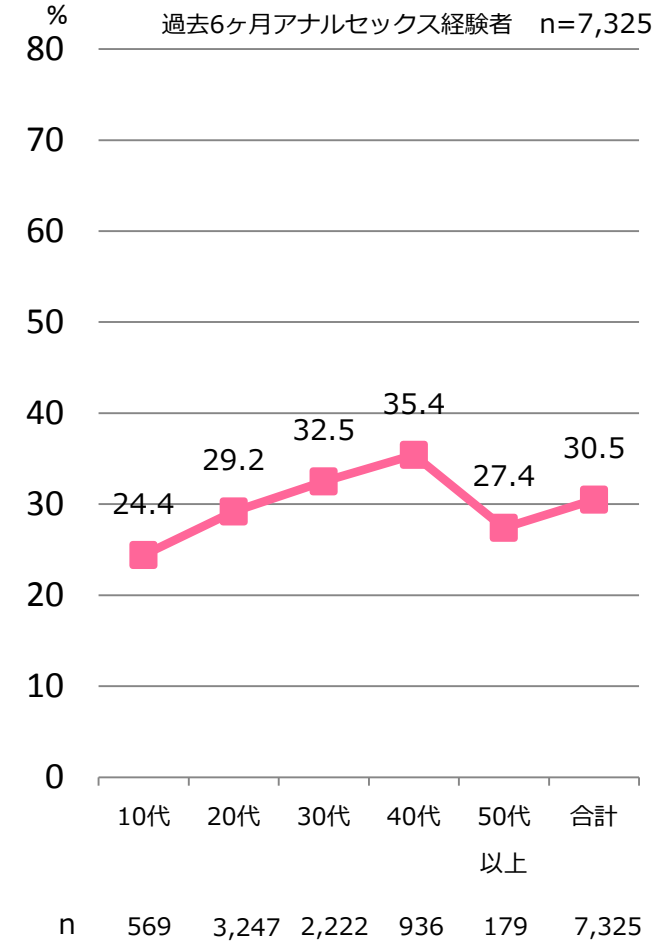


- 日本のMSMにおけるHIV/AIDSの流行認識
- MSMにおけるHIV/AIDSに関するメディア曝露 (過去6ヶ月間)
- ゲイ同士でHIV/AIDSについて話題にした (過去6ヶ月間)

HIVの流行について (コンドーム使用状況別)



コンドーム使用状況 (年齢階級別)

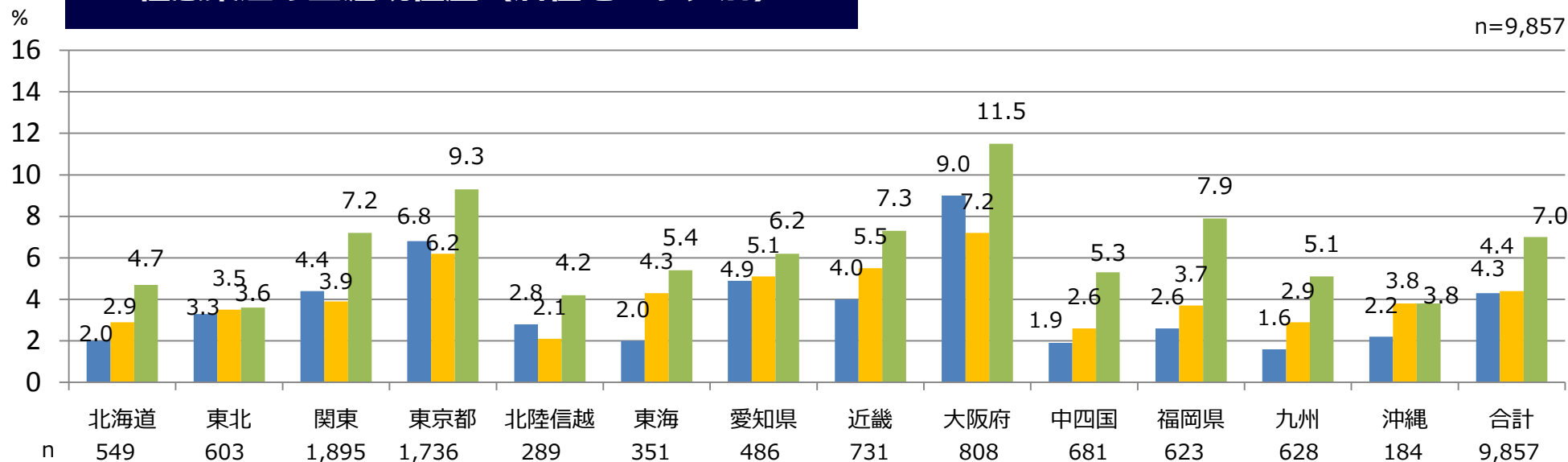


- 常時使用

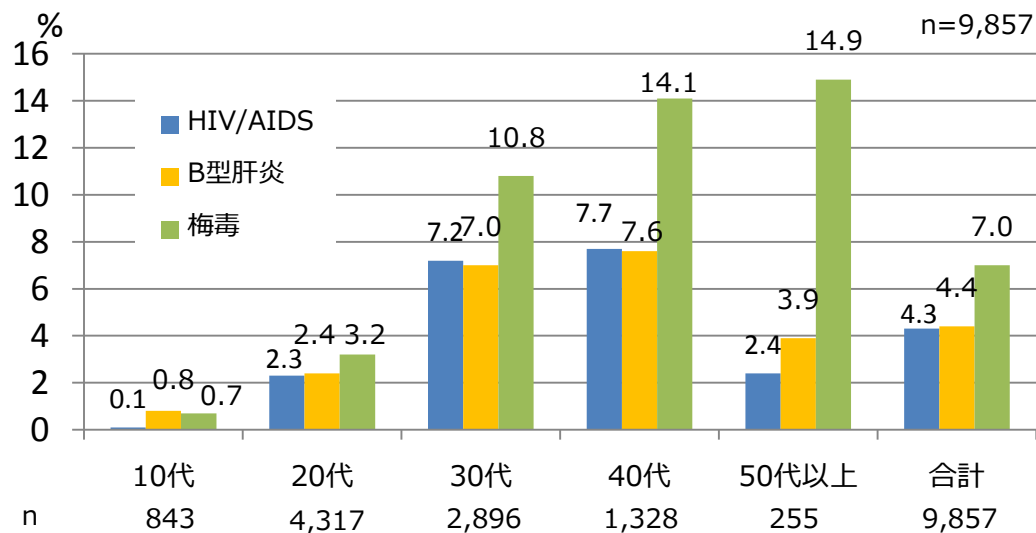
性感染症の生涯既往歴（居住地エリア別）

■ HIV/AIDS ■ B型肝炎 ■ 梅毒

n=9,857

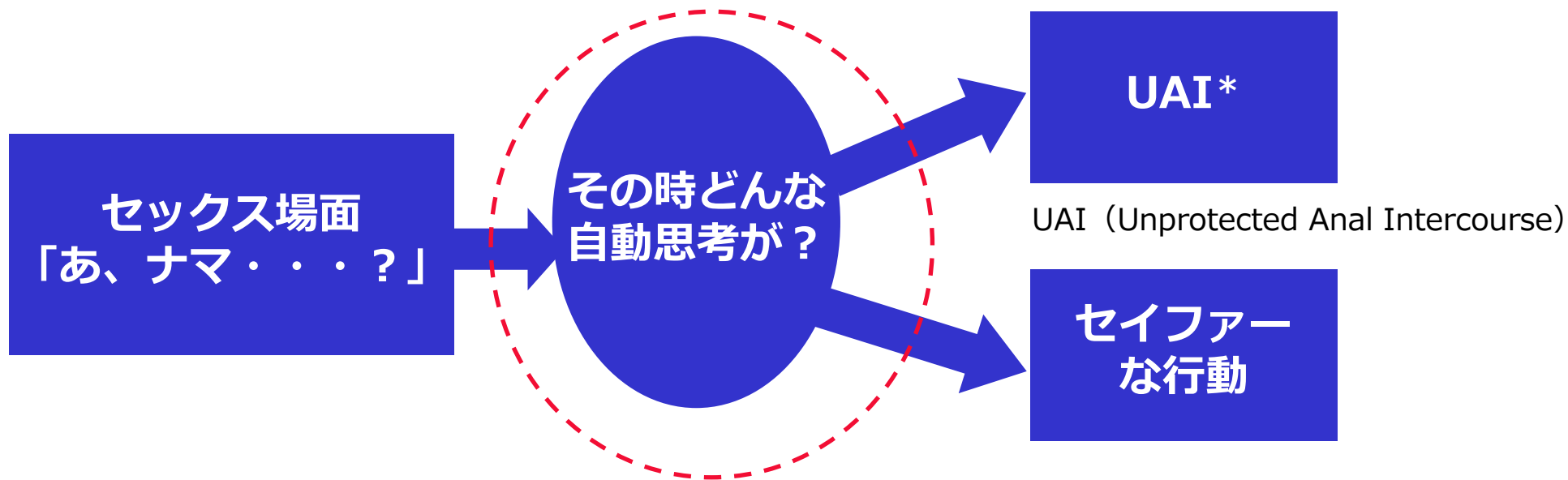


性感染症の生涯既往歴（年齢階級別）



- HIV抗体検査生涯受検経験は全国平均で41%
- 過去1年間の受検率は都会でやや高め
- 10歳代と50歳代が最も受検率が低い
- コンドーム使用が低い層も10歳代と50歳代
- MSM間におけるHIV流行認識は60%程度であり、若年層ほど認識が希薄（情報が伝わっていない）
- 流行認識がある層はコンドーム使用の傾向
- 自己申告のHIV陽性割合は全国平均で4.3%都市部で高い傾向（過少見積りであると推定）

HIV抗体検査場面での関わりの重要性 自分のパターンを知ってもらうこと



- ・ MSMのHIV/STDに関する知識・意識・行動の現状を知る
- ・ 認知と行動の関係を理解する

- ・ コンドーム使用を提案するための具体的方策を決める

心理教育

自動思考の特定
自動思考の修正

行動修正

- ・ 自分のUAI*時の認知を振り返り、傾向を知る
- ・ セーフに近づく認知を考え出す

HIV抗体検査場面での関わりの重要性 どう言おうかあらかじめ考えておく



■ 絶好の予防介入の機会を逃してはいけない

HIV抗体検査の陰性告知や質問や相談を受ける面談場面は性行動の振り返りやリスク行動軽減のための機会でもある

もう一步進んで「どうしたら実際に使えるか」ということを検査場面で受検者と一緒に考えることが重要

■ 使わなくていいよという相手に対して

どう言ったらいいか迷ってしまう

どう言ったら心証を悪くすることなく、コンドーム使用の意思を伝えられるかわからない・・・

■ 使いたいと思っているけど、ちゃんと上手く使えない人のための「100の方法」

「不安だからやっぱり使って」とお願いする感じで

「つけた方がいいよね?」「好きだからちゃんとつけるね～」とはっきり伝える

「安心してやりたいから」「セイフアーセックスしかないけど、いい?」

「はいこれ」（差し出しながら） 「ゴム買ってきたよ!」って前もって言うておく

何気なく渡す 普段から使い慣れているかのようにコンドームを渡した・・・などなど

学校教育におけるセクシュアリティ理解と援助スキル開発に関する研究

教員調査2011～2012年度

6自治体の教育委員会・校長会・研究会経由 悉皆調査

- 啓発資材（調査結果のフィードバック）**1.5万部**配布
- 啓発ポスター（学校に掲示）制作 **950施設**に掲示
- 研修機会（教員研修）の提供

教員研修の実施（35回開催、約2,000人の教員が参加）

- 参加型研修を5回開催（約150人）
神奈川県立高校教員を対象にMSM当事者等とのグループワークによる体験型研修を実施
- 講話型研修を35回（研究代表者および研究連携する当事者NPOによる研修に約2,000人の教職員が参加）



神奈川県性的マイノリティ人権・教育推進連絡会議を発足

従来のエイズ予防教育・性教育の統括部署は学校体育課やスポーツ体育課等であるが、人権教育の視点を加えて、教育現場でMSM理解を推進することを模索。

昨年度は6自治体15人の出席、**わが国で初めての試み**、今年目は5自治体17人の参加、連携関係を構築

横須賀市性的マイノリティ関係課長会議

人権男女共同参画課長、児童相談所長、こども育成部・こども青少年支援課長、保健所・健康づくり課長、教育委員会生涯学習課長、教育指導課長、支援教育課長

→平成26年度に予算化（人権擁護、自殺対策の枠組みで性的マイノリティを対象に）

■ 包括的なHIV予防対策の実現を目指す試みを

当面緊急の対象はMSMとして施策を打ち出す

- 流行の主流は男性同性間性的接触である
- 検査環境の整備と予防行動の促進キャンペーン
- HIV感染リスク行動の背景要因の理解
- 近接健康課題と連携した取り組み
(例えば、メンタルヘルス、自殺対策、薬物対策など)

社会環境の構築—社会的包摂— 意思決定と施策の実施に当事者の声を活かす

- 学校教育
- 保健所、感染症担当
- こころの健康センター
- 相談機関
- MSM当事者が集まる場所—繁華街の商業施設
- コミュニティセンター
- NGO/CBO 等